

(別紙5)

補助事業番号 28-2-014
補助事業名 平成28年度 障害のある人が幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 一般社団法人 日本自閉症協会

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

自閉症の概念が自閉症スペクトラムとして知的障害を伴った自閉症から、知的障害を伴わない高機能自閉症やアスペルガー症候群などを含んだ広義のものとして認識され、社会の中にもこのような障害を持つ方が多くいるということがわかってきました。自閉症児者はその多種多様な障害特性のため、地域社会等の日常生活において正しい理解や支援を受けられず常に生き辛さを感じ、孤立してしまう場合も多くみられます。自閉症児者が豊かで安心した生活をおくれるように、本人とその家族のみならず、広く社会全体に自閉症の正しい情報を提供し、理解啓発をおこなっていくことが重要だと考えます。また周囲の理解を促すだけでなく、自閉症児者が苦手としている集団生活を行い、コミュニケーション能力などの社会スキルを身に付ける訓練を行うことや、自閉症児者とその家族の心に寄り添った支援を充実させることで、自閉症児者とその家族の生活の質を向上させることを目的としています。

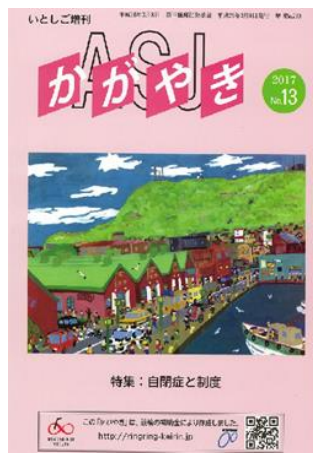
(2) 実施内容

①自閉症児者の家族や支援者のための指導誌（紙）の発行

<http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h28jka.pdf>

年1回指導誌「かがやき」を発行し、自閉症児者やその家族、療育・教育の関係者や施設職員、地域の支援者や関係機関等に対し、自閉症を取り巻く行政の動きや法令・制度の解説などのほか、自閉症の最新の医療や療育・福祉の教育の実践など、最前線で活躍している専門家による質の高い情報提供を行っています。更に年6回会報誌「いとご」を発行し、日本自閉症協会や関連機関の活動と時事問題のほか、自閉症児者やその家族の実際の体験談などを紹介し、日常生活を意欲を持って過ごせるように情報提供を図っています。

(別紙5)



②自閉症児者の地域生活を豊かにする学習相談会

<http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h28jka.pdf>

医師や大学の先生などの有識者を講師として研修会を行い、その後参加者の方への個別の相談会を行っています。自閉症児者とその家族が地域生活で幸せな生活を送れるように、講師はその地域でニーズのあるテーマで講演を行います。正しい情報の提供と問題対処力の向上は、自閉症児者とその家族の生活の質の向上につながり、支援者にとっても正しい支援方法で支援を継続していくためのひとつの指針となっています。また個別相談会では自閉症児者とその家族の困り感に耳を傾け、困難な状況が解決される機会を設けることで生き辛さの軽減につながり、日常生活への意欲を高める一つの原動力となっています。



(別紙5)

③自閉症児と保護者の相互理解と将来への指針（集団指導キャンプ（1泊2日））

<http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h28jka.pdf>

地域社会で生活する上で必要な社会スキルを身につけるため、1泊2日の宿泊型集団生活を行います。2日間にわたり医師や専門家などの講師、専門指導員のサポートを受けながら、自分の特性と上手く付き合う技術を身に付け、地域社会で居場所を探し出せるように、登山や川遊び、飯盒炊爨などの療育プログラムに取り組みます。また保護者に対しては研修・療育相談・懇親会を開き、保護者に学びの場を提供し、心のケアを行っています。参加した親子が直面している困難な状況や孤独感を軽減し、キャンプ後の生活を意欲的に過ごせるようなプログラムを計画し実施しています。



2 予想される事業実施効果

①自閉症児者の家族や支援者のための指導誌（紙）の発行

関係機関や福祉施設の職員・教師等に継続的に届けることで、自閉症児者への合理的配慮に基づく制度や支援体制作りなどにつながることを期待されます。また自閉症児者とその家族にとっては、自閉症を取り巻く新しい情報を得ることで自分たちにあった正しい支援を選択することができるようになる。

②自閉症児者の地域生活を豊かにする学習相談会

専門家や地域の支援者が連携をとり、自閉症児者とその家族にとって困難な状況を解決する場を設けることで日常生活での生き辛さを軽減することができます。更に自然災害などの有事の際には支援者や他の自閉症児者とその家族との連携が期待できます。また継続して行うことで、支援者の心の負担も軽減され、支援活動を継続していく力となります。

③自閉症児と保護者の相互理解と将来への指針（集団指導キャンプ（1泊2日））

1泊2日のキャンプを通して、自閉症児者は苦手とされる対人コミュニケーション

(別紙5)

能力などの社会的スキルを身につけることができます。また、普段は自閉症児者本人としか関わりのない家族の方も、他の参加者と情報交換をしたり、研修や勉強会で自閉症に関する理解を深めたりします。そして、自分の子どもが他の参加者とコミュニケーションをとり、集団生活を送っている様子を垣間見ることができ、改めて親子で障害について考える一つの契機となります。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

<http://www.autism.or.jp/report05/keirin/h28jka.pdf>

会報誌	いとしご158号	14,000部
会報誌	いとしご159号	14,000部
会報誌	いとしご160号	14,000部
会報誌	いとしご161号	14,000部
会報誌	いとしご162号	14,000部
会報誌	いとしご163号	14,000部
指導誌	かがやき13号	14,000部

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当物なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 一般社団法人日本自閉症協会（ニホンジヘイショウキョウカイ）
住 所： 〒104-0044
東京都中央区明石町6-22 築地ニコビル6F
代 表 者： 会長 市川宏伸（イチカワヒロノブ）
担 当 部 署： 事務局（ジムキョク）
担 当 者 名： 事務局職員 陳野功（ジンノコウ）
電 話 番 号： 03-3545-3380
F A X： 03-3545-3381
E - m a i l： asj@autism.or.jp
U R L： <http://www.autism.or.jp/>